

野生植物の分布や変異を調べる上で、標本は欠かすことのできない「実物付きデータ」とも呼べるものです。当館でも、今年の4月以降、3件の植物標本のコレクションをご寄贈いただきました（8月時点、登録日基準）。

谷口みなみ氏からは、大学院在籍時の研究で採集された、シソ科ツツナミソウ属の標本17点をいただきました。このように研究で使用した標本を「証拠標本」といい、後の研究者が結果を再検討する際に重要になります。

丸岡道行氏からは、宍粟市や神崎郡に生ずる、自然度の高い山中の植物、水生植物、希少性の高い植物など、標本約380点をいただきました。（写真1）丸岡氏は兵庫県植物誌研究会の会員で、10年以上前から標本を寄贈いただいています。

望月譲二氏からは、兵庫県のハチクの標本53点をいただきました。（写真2）これまでもタケ・ササ類の標本をご寄贈いただいておりますが、今回は全て花付き、それも小花にタケ類てんぐ巣病菌Aciculosporium takeの分子座が生じているものです。Mycoscience誌から出版された論文の証拠標本にもなっています。

植物が好きな若手は一昔前より減っていますが、セミナーや展示を通して、植物が好きになってもらえるきっかけを作っていければと思います。

李 忠建（系統分類研究グループ）



写真1 兵庫県のヤブミョウガの標本 写真2 てんぐ巣病菌の寄生したハチク標本

トピックス

「博物館のお仕事」フロアスタッフ

「博物館を楽しもう！」

を合言葉に、フロアスタッフは、お客様に一番近い存在として、様々な業務に携わっています。クイズを交えて展示室を楽しく紹介する「展示解説」（写真3）、大きなスクリーンでご覧いただくスタッフ手作りの「デジタル紙芝居」（写真4）は、フロアスタッフのメインのイベントです。

また、土日祝日に行うイベントの企画・運営も、季節や企画展などに関連して行っています。（写真5）幼児から大人の方まで博物館を楽しんでいただけるようにフロアスタッフ一同日々業務に励んでいます。みなさまのお越しをお待ちしております。詳しくは、本館ホームページのイベントスケジュールでご確認ください。



写真3 展示解説「ボルネオジャングルツアー」



写真4 デジタル紙芝居「六甲のうりんぼ」



写真5 ワークショップ「とっても簡単化石のレプリカづくり」

企画展

価値の手直し展

価値に気づく、モノの見方。

アップサイクルから
見つめる
モノと人の豊かな関係

